第20号

2026年1月21日発行

ねむの木新聞

発行責任者
869-2301
熊本県阿蘇市
内牧594-8
☎0967-32-0861
グループホーム
ねむの木のした
荒木　博子

みんなが安心して暮らせる社会は、遠い未来のことではなく、私たち一人一人の行動から始まるものだと思っている

「一人一人を大切にすること」

阿蘇中学校　一年　宮崎來那（なな）

私は将来、祖母や母のような福祉の仕事をするかどうかは分からない。

私の祖母は、障がい者グループホームを運営している。社会は人でにそがはたらるいい会心らるて話しいるのにはて考をてて聞暮いらるきらる。よ障す。うがた家にいめでなのにはてつあはよいた。るどくる。人うグもしル私なたーの いらプ母もよホーそ人もいーム同か、

じとの障よい出が私のうう来いの祖に話事者大をやグ切し障ルにてがーさいいプれるのホる。あーム社私るム会は人でにそがはつの安たい会心らて話しいて考をてえ聞暮るきらるよ障す。うがた家にいめでなのにはてつあはよいた。るどくる。人うグもしル私なたーの いらプ母もよホーそ人もいーム同か、

あるとき、祖母が「できないことを助け合うだけ」を見つけることは大事なんだ障がい者グループホームの人は、人と人とのつながりを切り離すことは、人間として大切なことだと思います。

私は、そんな祖母を尊敬しています。それぞれに合った支援をしながら、一人一人を大切にすることを一歩ずつ行っています。

私たちは、毎日入居者に寄りそい、一人一人の気持ちを聞きながら、安心して暮らせる社会を目指して、日々の仕事をしています。

私は、そんな祖母を尊敬しています。それぞれに合った支援をしながら、一人一人を大切にすることを一歩ずつ行っています。

私たちは、毎日入居者に寄りそい、一人一人の気持ちを聞きながら、安心して暮らせる社会を目指して、日々の仕事をしています。

私は将来、祖母や母のような福祉の仕事をするかどうかは分からない。

法務省人権擁護局及び全国人権擁護委員連絡会主催
令和七年度　第四十四回全国人権作文コンテスト
熊本県大会　最優秀賞　熊本地方法務局長賞　受賞作品、

編集後記

「みんなが安心して暮らせる社会は、遠い未来のことではなく、私たち一人一人の行動から始まるものではないかと思っている」この最後のフレーズが、私の心に強烈に響いた。「そうだよねえ。やっぱり、そこだよねえ」と心の中でつぶやきながら、何度もくりかえし読んだ。祖母＝施設長（荒木博子）と母＝世話人（宮崎萌々子）が日頃やっていることや話していることを、私＝宮崎來那が聞いて感じたこと、考えたことなどが書かれている。私も微力ながらスタッフの一員としてこのグループホーム（ねむの木のした）で働いている。同じ気持ちで働いているつもりだが、みんなが安心して暮らせるグループホームにするために自分がどんな行動を起こしたか、利用者さんの強みを活かした支援計画ができているかなど、今一度振り返ることにした。計画の練り直しは大変だが、強みを活かすという明確な視点があるから考えやすい。ありがとう。（良）

[今後の主な予定]

1/19～24
りんさん（仮名、10代男性）ショートステイ

21　たろうさん（仮名30代、男性）モニタリング　（時計台より来所）13；30～